

ホットな品川区の情報や話題をお届けします。

発行日：平成 26 年 4 月 1 日（火曜）

発行者：若林ひろき 品川区議会議員

ブログ <http://ameblo.jp/wakabayashi-hiroki/>

ツイッター [https://twitter.com/wakabayashi\\_h](https://twitter.com/wakabayashi_h)



- もくじ
- 1P
    - ・品川区予算案審査（前半）
    - ・私の本棚「〇に近い△を生きる」
    - ・お家でご飯を作ろう！食べよう！

- 2P
- ・平成26年度予算が成立
  - ・中小企業融資あつ旋の拡充
  - ・とうきょう健康ステーション



## お家でご飯を作ろう！食べよう！～消費税節約にも～

消費税率 8% で、民間研究所によると年収 300 万円未満世帯では年間 5.7 万円負担が増加すると試算されています。家計のピンチをやりくり上手で乗り切りたいものです。別の調査では、節約費目の 1 位は食費が圧倒的で、外食を控える、家で料理を作る、安い食材でレパートリーを増やす、などがあげられていました。また、活用したい食材として、もやし、豆腐、鶏胸肉がトップ 3 に。

お家ご飯で節約、バランス、団らんを工夫、楽しみたいですね！

## 平成 26 年度 品川区予算案審査「抄録」前半

予算特別委員会が 8 日間開催されました。若林と区とのやりとりをお知らせします。

### ◆障がい者サービス

※問題意識：例えば肢体不自由者への訪問介護や視覚障がい者への同行支援などサービスの量が十分でない場合がある、といった障がい者の声に対する課題の改善

Q 予算の立て方は。

A 必要な量を見込み算定した金額に対し、国から 1/2、都と区で 1/4 ずつ負担している。国には一定の基準があり、基準を超えると区の持ち出し負担になる。26 年度では、サービス量が増えると予想した予算立てとした。

Q 量の計画はどのように行っているか。区が立てた量（計画）に対し、多すぎるなど国からの指導や削減はあるのか。

A 利用者に見合ったサービス量を決定している。量を多く必要とする人、少しの量で生活できる人がおり、全体調整を行っている。国からの指導が直接あるわけではないが、国基準を踏まえ足りない量は区の上乗せをした水準を持っている。

Q 八王子市に調査に行った際、「国は柔軟に対応してくれる」と示唆があった。今後の施策に反映することを要望する。

### ◆施設の老朽化対策

※問題意識：築 30 年超が 6 割となるなど、老朽化施設の建て替えや改修費用は財政を圧迫していく。適正な区民サービスを維持するための新たな取り組み

Q 固定資産台帳を整備する意味は。

A 今ある財産台帳は土地、建物、工作物が対象で、建物等へどれだけ投資し、どのように区民の役に立っているのか分かりにくい、把握できないのが実態。対して固定資産台帳では道路等のインフラも対象になり、有効活用や将来投資、維持管理コストも把握できるようになる。

Q 現金等がどれだけあるのか、施設等財産がどれだけあるのか、全体としてどれほどのお金が将来必要になるのかが分からないのが今の状態。これを明らかにするために複式簿記・発生主義の会計制度の導入が必要だ。

A 将来を見通したサービス計画のためには、指摘の通り全体の評価が必要。固定資産台帳の整備を土台に、複式簿記など進めていく。

※問題意識：老朽化施設の建替えや修繕には多額の費用がかかるため、個々の施設を長寿命化するのか建替えするのか、財政支出とのバランスを取るために計画性を持たなければならない

Q 中延 1 丁目区営住宅は当初、耐震化し長寿命化を図ることになっていたが、今回建替えに変更した理由は。

A 築 40 年で老朽化が進んだこと、また、木造住宅密集地域整備事業を進める中で同地域居住者の住宅確保策としても活用したい。

Q 区は施設有効活用プランなどに基づいて建替えや改修が進められているはずだが、変更したことについての見解は。

A プランは、諸条件によって変わってくると考える。木密集地域整備の推進など様々な事業との関係で、今回は建替えを選択した。

### ◆空き家実態調査

※問題意識：今後の活用策など含め、不動産団体との連携が重要を初動段階から行わなければならない

Q 調査の実施にあたって、初動段階から不動産団体と連携し協力関係を作るべきだ。

A 空き家状況を把握するために、町会の協力に加え、不動産団体との連携も深めながら実りある調査にしていく。

### ◆高齢者の安心

※問題意識：地域包括ケアシステムの構築が重要である中、医療・介護等の連携のあり方に焦点を当てる

Q 地域包括ケアシステムは、高齢者が介護や医療が必要になっても、安心して住み続けられるための仕組みづくりだが、医療と介護・福祉の連携とともに、地域の支え合いという地域福祉も合わせたシステムと思うが見解は。

A 医療と行政の他に、地域資源を活用した重層的な連携ということで、地域福祉の観点も入っている。

Q 医療と介護、民生委員などの連携では、段差を感じる。利用者の立場で言えば、医療や介護等が一体となったスムーズにサービスを受けられることが大事だ。

そのための取り組みを。

A 利用者の視点を大事に考えている。

指摘の通り段差については感じる場所があるので、滑らかなシステムづくりを検討していく。



## 私の本棚

「〇に近い△を生きる」

正論や正解にだまされるな」

鎌田實（ポプラ新書） その3

諏訪中央病院での激務に加え、チエルノブイリ事故支援、イラク救済活動など、すさまじくがんばる著者が、頑張らない生き方―「正解」にだまされるなど説いています。「〇と×のレットルを貼る生き方はお手軽だ。〇と×の発想法は堅苦しくて不自由でもしるみがない。〇と×の間にある無数や魅力を感じる」。魅力的で示唆に富んだ言葉（趣旨）を、紹介します。

（平和を―中村医師の別解力）

中村哲先生は、パキスタンでハンセン病医療活動を行う中、隣国アフガニスタンで大干ばつが起きた。聴診器と薬だけでは命を守れないことに気がつき、医者が井戸を掘りだした。

医者が井戸を掘るのは見事な「別解」だ。現場に立っているからこそ、彼には命を救うために何が必要か見えてきた。

井戸を掘っているうちに、生活が安定しない限り、政府軍か反政府軍の兵隊に雇われ、戦争が続いてしまうと気付く。戦争が行われる中で、医者が傷ついた人を一人ひとり治しても、問題の解決にならないことがわかったのだと思う。×より少しでもましな△を必死に探した。

「鉄砲を買うより、水をひけ」と言い始めた。アフガンは治安が悪くなると、町中に武器が出てくる。その武器で殺し合いが始まってしまふ。生活が安定すれば、誰もそんなことはしなくなる。彼はついに、灌漑水路を作り出す。3千ヘクタールが緑に覆われた。中村哲さんの「別解力」には脱帽。（つづく）